

# 第8回 戦争社会学研究会大会

2017年 4月 22日(土)～24日(月) 琉球大学法文学部 新棟114教室

## 大会一日目

- 個人報告 司会: 西村明(東京大学)
- 13:00 ~ 14:00 「戦跡としての大学:慶應義塾大学を事例にして」 アウケマ・ジャスティン(上智大学大学院)
- 14:15 ~ 15:15 「東部ニューギニア地域における遺骨収集の展開と戦友会」 中山郁(國學院大學)
- 15:30 ~ 16:30 「復員兵からみた戦後占領期の労働市場—SSM調査の職歴データの分析—」 渡邊勉(関西学院大学社会学部)
- 16:45 ~ 17:30 沖縄エクスカーショに関する事前情報提供 司会: 柳原伸洋(東京女子大学)
- 17:30 ~ 総会
- 18:00 ~ 懇親会

## 大会二日目

- 個人報告 司会: 一ノ瀬俊也(埼玉大学)
- 13:00 ~ 14:00 「全国戦没者追悼式を中心とした慰霊行事のテレビ中継の変遷—メディア・イベント化する慰霊の研究に向けて—」 塚原 真梨佳(情報科学芸術大学院大学大学院)
- 14:15 ~ 17:00 シンポジウム 「『野火』の戦争社会学」 司会: 山本昭宏(神戸市外国語大学)  
報告者: 野上元(筑波大学) 福間良明(立命館大学) 成田龍一(日本女子大学)  
討論者: 青木深(東京女子大学) 松下優一(法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズRA)

趣意:

『ビルマの竖琴』『ひめゆりの塔』『黒い雨』など、映画化された戦争文学は多い。

たとえば『ビルマの竖琴』と口にする場合、その言葉は、原作小説と映画作品を包括する物語内容とそこで描かれる「戦争の受け止め方」をともに含んでいる。戦後日本社会の戦争認識を考える際、こうした戦争に関する「古典」の存在を無視できない。こうした問題意識のもと、本シンポジウムでは大岡昇平の『野火』(1951年)とその映画化作品(1959年、2015年)に焦点を絞る。戦争文学と映画を題材にした文学研究、映画研究、歴史学の研究はすでに数多く存在するが、その上で、「戦争社会学」は、どのように戦争文学・戦争映画と向き合うことができるのだろうか。本シンポジウムでは、あえて『野火』を対象を絞ることで、登壇者に、それぞれのアプローチを提示していただく。「戦争社会学」があり得るとしたら、それはどのように文学・映画に向き合うことができるのか、その方法を浮き彫りにし、共有したい。

## 大会三日目

### ■ エクスカーション

8:30 那覇市を出発(具体的な集合場所等は、参加者内でお伝えします)

南風原文化センター(陸軍病院壕の解説ビデオ視聴) ⇒ 沖縄陸軍病院南風原第20号見学 ⇒ 南風原文化センター内の展示見学  
⇒ 昼食 ⇒ 那覇へ移動、「不屈館」訪問

14:30 一応の解散 ⇒ 17時台等の飛行機で帰られる方は、ゆいレールの県庁前、あるいはさらに那覇空港寄りの駅への移動を予定。

\* 移動はレンタカーで行う予定です。

\* 費用は入館料+レンタカー代金を頭割りする。・院生・非常勤の方は、少し傾斜をかけて安くする予定です。

\* 申し込み期間: 4月5日(水)までに、下記メールアドレスにご連絡ください。

\* ご質問等は、柳原伸洋(yanagihara0701@gmail.com)までお願いいたします。

### \* 費用

◆ 大会参加費: 会員(専任・院生とも)2,000円 ◆ 非会員(専任・院生とも)3,000円

◆ 年会費: 有職者 5,000円、その他の方(院生など) 2,500円

...大会参加費と年会費を合計しますと、会員有職者 7,000円 その他会員(院生など) 4,500円 非会員 3,000円となります。

\* 場合によって多少の変更の可能性があります。お問い合わせは、戦争社会学研究会事務局宛(ssw.adm@gmail.com)まで